

山林未利用材を活用した木質バイオマス発電による林業振興

<概要>

- ・ 事業実施主体：（株）グリーン発電大分（大分県日田市）
- ・ 発電設備：木質バイオマス発電
発電出力 5,700kW
発電電力量 約4,500万kWh/年（約10,000世帯分）
- ・ 燃料：木質バイオマス（山林未利用材）
約7万トン/年
- ・ 建設費：約21億円
- ・ 運転開始時期：平成25年11月



発電施設の外観

<特徴>

- ・ 地域の山林未利用材を有効活用するため、同発電所を建設。
- ・ 平成19年11月に、森林組合、素材業者、運搬業者の18社で構成される「日田木質資源有効利用協議会」を立上げ、集荷計画、供給協定、原材料の確保、現場研修等を実施（平成27年5月現在30社が参加）。
- ・ 同協議会から原料（間伐材、林地残材等）を購入。1日200トン为原料として発電を行い、得られた電気のうち5,000kW分を売電。
- ・ 不純物の含まれている建築廃材を使わないことで、燃料を燃やした後の灰を肥料等として販売することが可能。
- ・ 発電所と燃料化施設の運営のため、地元に新規雇用（26人）を創出。材の収集・搬出のため、山側にも50～60名の雇用が創出。
- ・ プラントの隣接地で、平成28年度から、農業法人が発電に伴って生じる温排水を利用した施設園芸（12aのハウスでイチゴ栽培）を計画。苗の管理作業等のため、雇用が創出。



燃料となる山林未利用材



燃料チップ